

プラットフォーム〈第2回〉を開催しました。

発信元：北海道開発局
道路維持課
機械課

- 平成29年9月29日(金) 10:00 ~、TKP札幌駅カンファレンスセンター3階 3Bルームにて開催



議事(1)第1回プラットフォームについて
議事(2)知床峠除雪省力化に向けた意見交換会について
議事(3)具体的な取組(案)

- 北海道大学大学院工学研究院の萩原教授を座長として進行
- 各委員より【各機関の実状や課題】を説明(抜粋)

▼(1)、(2)北海道開発局 建設部 道路維持課 鈴木課長補佐

・熟練オペレータが減少する中、ICT活用は極めて重要な取組。
・現状の知床ロータリ除雪は、積雪により道路形状が見えないため、センターラインの位置を確認しながら前進しているが、本来はどちらかの路肩側から除雪を行った方が効率的。

▼(3)建設コンサルタンツ協会 内藤

・平成30年度の実証実験に向けて国道334号 知床峠5kmの区間を先行して3D道路データ、TINモデル(地形データ)を作成中。
・今後、ICT施工を行う上でも、このようなデータを使用することで省力化が図れるものと考えられる。

▼(3)寒地土木研究所 高本主任研究員

・不感地帯の測位精度低下対策としてRFIDの計測精度を検証した。
・暴風雪時における除雪車周囲探知技術としてミリ波レーダによる探知性能を検証した。

▼(3)北海道開発局 事業振興部 機械課 中山課長補佐

・知床峠で作業を行っているロータリ除雪車2台にセンサーを取付け投雪軌跡を記録していくことを考えている。
・今後のシステム構築に向け実証実験を行っていきたい。

ディスカッション(抜粋)

- 各議事の説明に対して、座長・各委員によるディスカッション(抜粋)

▼具体的な取組・年度計画は概ね了承。

▼バックホウを安全に作業させる難しさと経験の重要性を認識した。その点でTINモデルには非常に期待できると感じた。また、除雪を行うための最適な作業経路まで発展させる必要がある。

▼3Dマップを活用することで除雪をする際に見出し杭を人力で打つ作業が必要なくなることも考えられる。

▼バックホウを安全に作業させる難しさと経験の重要性を認識した。その点でTINモデル(地形データ)には非常に期待できると感じた。

▼オペレータは水平器で傾斜を確認し作業しているため、ガイダンスの中で自車の傾きを示せれば、安全性の向上が図られる。

▼RFIDによる補完技術は非常に重要だと認識しており期待している。

▼ミリ波レーダを除雪車に搭載した研究も必要ではないか。

▼投雪記録は投雪方向だけでなく、風の方向、風速と一緒に記録した方が良いかと思われる。

▼知床に行った際に本当に大変な作業だと改めて感じた。今後の成果について多いに期待したい。

▼知床峠での実証実験に向け様々な調査をされ、様々な技術が進んできていることがわかった。もっともっと進めてほしい。

▼プラットフォームは見える化が1番大事ではないかと思った。そのためにもPFにて色々な情報をご提供いただきたい。

